

他自治体市民活動施設視察の振り返り（意見・感想等）

1 宮代町コミュニティセンター 進修館

(1) 良かったと思うところ

- ・市民の生活圏にあり、スペースも十分
- ・建物を生かした市民活動とサポートの環境（NPOの存在）
- ・各種団体への情報発信と働き掛け
- ・NPO法人による市民目線での運営
- ・情報誌、人材派遣制度「やりたいゾウ」、団体交流の機会「四季の丘祭り」などの活動
- ・地域の大学との交流・活用
- ・コミュニティセンターの管理と市民活動支援を一体化したことで、市民活動団体と接する機会が増え、支援の幅が広がっている。

(2) 課題と感じたところ

- ・時代により求められる役割がさまざまに変化すること
- ・さらに学生と連携すれば、住みよい街づくりができるのではないか
- ・施設から遠くに住んでいる人は利用できるのか。

(3) その他

- ・隣接自治体であるので、農産物販売、サークル活動、観光などで相互交流をもっと盛んにできるとよいのでは
- ・NPO法人には、運営してくれる人材・組織の確保が必要

2 桶川市市民活動センター

(1) 良かったと思うところ

- ・商業施設内にあり、利便性が高い（市民が行きやすい、駐車場・トイレなど使いやすい）
- ・スペースも十分
- ・立地を生かした活動をしている
- ・毎年「市民交流会」を開催して市民の交流の場を広げる活動を積極的にしている。
- ・登録団体への補助制度
- ・活動グループからの情報を不特定多数の人に発信できる。

(2) 課題と感じたところ

- ・市内の公民館などとの連携
- ・共助活動の必要性
- ・立地を生かしたPRの必要性
- ・利用が活発になれば、民営に移管できるのではないか
- ・スペースが少々狭いのではないか
- ・市民活動団体による地域活動の体制づくり（行政主導の感が強い）

3 加須市市民活動ステーション くらくら館

(1) 良かったと思うところ

- ・ 中心市街地の古民家を利用しており、集客の観点からは好条件である。
- ・ レターケースなどで、利用団体同士の情報交換ができる。
- ・ 合併など地域の事情を踏まえた市民活動の推進をしている。
- ・ こうした施設を設け、市民活動支援に踏み出したことに意義がある。
- ・ 運営者の人間性・個性が出ており自主的な運営の雰囲気がある。
- ・ 狭いスペースであるがアイデアを出し、上手く活動している。
- ・ 担当者が積極的に活動しており、活動内容が充実している。
- ・ 古民家を利用していることもあり、人の温もりが感じられる。

(2) 課題と感じたところ

- ・ スペースが不足しているのではないか。
- ・ 合併による影響（市民団体の統合、団体の積極的な活動と交流）
- ・ 照明の改良が必要
- ・ 情報ボックスがあっても、見に来ない団体がある。

(3) その他

- ・ 空き店舗を利用して、小規模で行っている。
- ・ 試行錯誤しながら運営している様子が伺え、運営にはエネルギーが必要と感じた。

4 全体の感想等

- 「市民の活動スペース」の施設としては、それぞれ特徴あるものと思います。

公的支援により設置され、維持管理されているのは不可欠のことなのだろうと考えます。（１００％ではないと思うが。）

市民の活動が積極的かつ有効に展開できる条件としては、

- ① 施設の設置場所をどう考えるか（設置環境）
- ② 施設の雰囲気づくりをどうする？
- ③ 「まちづくり」のための市民活動スペースの在り方、捉え方をどうする？
- ④ 一番大事なことは、この施設をどうやって運営していくかであり、強く、熱く、情熱的な思いを持ち合わせた「視野の広い、前向きな発想のリーダー的存在」の人材を発掘し、育成出来るかだと思う。

今後の審議会の展開としては、上記に示した視点で、「白岡らしさ」を求めつつ、具体化していくことが必要と考えます。

- ３件を視察して、それぞれ工夫して地域に合った活動を一生懸命行っていることが分かり、とても良い視察になった。
- 各施設、それなりの活動をしています、各市・町を考えたとき、住民の施設利用がどれだけあるのか疑問に感じた。

「くらくら館」規模の施設を市民が通える範囲に造り、地域住民での運営ができれば。それには、施設を運営してくれる人材の確保とNPO法人の立ち上げが課題となると思う。

- 白岡でも、空き店舗を利用して、その場所へ行ったら、いつでも、皆とおしゃべりでき、また、いろいろな情報が得られる（レターケース、掲示板等）場所、そして、活動していく中で、今後の問題、課題等をスタッフと市民で話し合いを重ね、身近なサポートセンターを作っていけたらと思います。

（はじめの一步が大変、リーダー、費用等）

- 市民が無理なく集まれる距離のところに、「くらくら館」のような施設を何箇所も作り、活動していければと思いました。

《参考》各委員の意見・感想

1 宮代町コミュニティセンター 進修館

- 東武動物公園駅に近く市民の生活圏にあり、スペースも十分用意されている。ただし、今回説明を受けた部屋は音響が悪く不満を感じた。

町からの支援もあり、社協などとの連携もあり、これらの対応の必要性を感じた。

- まちの歴史とストーリー性のある「進修館」を活かした市民活動とサポートする環境づくりが進んでいると感じました。

課題としては、市民活動施設を委託して運営していく難しさと求められる役割の時代による変化への多様性だと思いました。

渡邊施設長を中心とした各種団体への情報発信と働きかけ、「きっかけ」づくりの重要性を感じました。

- 市民主体で設立されたNPOが公民館（進修館）の指定管理運営を担うと共に、市民活動サポートも行っています。一番大きいのは、市民活動の拠点となる公民館（進修館）の存在とサポートする組織（NPO）の存在ではないでしょうか。拠り所と支えのある事によって、宮代町の市民活動の更なる発展と深化を期待させる今回の訪問でした。

- 住民活動が近くにある日本工業大学の若い学生ともっと連携し住みよい便利な街づくり環境が可能になるのではないかと思います。

宮代町は白岡市と隣接する街なので各分野で相互交流（農産物販売、サークル活動、観光案内等）をもっと盛んにできればいいなと思った。

- 運営管理をNPO法人に委託し、市民の目線で運営しているのが参考になった。

運営費2,700万円の内訳、運営に係わる従業員にはいくら支払っているのか、知りたかった。

情報誌「みつば」の編集（見やすく・目を引く）、人材派遣制度「やりたいゾウ」、活動団体同士が知る機会「四季の丘祭り」等積極的な活動が見受けられ、参考になった。

日本工業大学との「パソコン教室」をはじめ、学生とのコラボなど地域の大学の活用。

施設の近くの人には利用できるが、施設から遠い利用者はどうなのか。駐

車場が狭く感じた。

※ NPO法人運営には運営してくれる人材・組織の確保が必要（課題）

- 最初の印象は、声が小さいのにマイクを使用しないで説明をしておりましたが、全然聞き取れませんでした。

その後、館内の案内の時は、説明は良かったと思いました。

2階のカフェでは、若い方から障害者、高齢者迄、笑顔で迎えていただき、良い雰囲気だった。また、庁内の各団体と大学側と良く連携を取りながら交流に努めているように感じました。

- 歴史ある建物を活かし、積極的な活動をしていると思った。

特にやりたいゾウの人材派遣制度は素晴らしいと思います。

雰囲気のあるホールでのコンサートは、さぞ素敵なものでいらっしゃると思います。自分も一度席に座らせていただきたいと思いました。

白岡でも市民のコンサートを拝聴できる素敵な会場があるといいと思いました。

- 質疑の回答にも、コミュニティセンターの管理と一体化することで裾野を広げる活動が可能となったとあったが、市民活動団体と接する機会が増え、支援の幅の広がりが望めると感じた。

ハード面（館）とソフト面（運営）の両者が合致することが大切であると感じた。

2 桶川市市民活動センター

- 市内4か所にある公民館に加え、設けられた施設であり、設置環境、スペースとも好条件であると考えます。

利用団体をどのようにとらえるか、という観点からは、非常に広範囲であり、白岡における「まちづくり」をどのように解釈するのかを再検討する必要があるか？

- ショッピングセンター内（べにばなウォーク）という立地を活かした活動を推進している。

課題としては、桶川市に存在する公民館、コミュニティセンター等施設との連携と共助活動の必要性和立地を活かしたPRの必要性を感じました。

活動センターによる「人の居場所づくり」と「人と人を繋げる」大切さを改めて強く感じました。

- 市民からの相談対応に困難を感じるケースがあるとの話がありましたが、市役所窓口との差別化をどう図っていくのか、役割分担の検証及びより専門性の高いNPO等への指定管理移行への検討が必要な時期に来ているように思われます。

ショッピングセンター内に立地し、利便性も良く、スペース及び設置設備も整っていて、サポートセンターとしては恵まれている感じがしました。

- 地域の商業施設を利用し駐車場、トイレ、会議室等が共通に利用でき、格安家賃で月11万円とのこと。場所的にも利用形態でも便利だと思います。

運営が市の直営とすることで一般の利用がもっと活発になれば民営に移管することは可能と思われる。

- 毎年「市民交流会」を開催して市民の交流の場を広げていく活動を積極的にしていますが、開設2年、これからの施設と思いました。

登録団体への補助金制度は見習いたい。

聞いたところによると、桶川市内にこのような施設はここだけとのこと。利用できる人は限られるのでは。

商業施設の中に置くことで市民が行きやすい場所になっているように思う。（駐車場の確保、帰りに買物、ぶらりと立ち寄れる）

市民活動サポートセンター各条例、補助金交付条例など細かく規定されている。

- 場所は、市民が多く集まる所に設置されており、大変良いのではとおもいましたが、少々狭い感じがしました。
- ショッピングセンターの中という利便性があり、今後、さらに若い世代にも活用してもらえるのではないかと思います。

会議等の後、お茶やランチがすぐできるのも魅力です。

施設は、すっきり整えられていて、使いやすいと思います。

- 商業施設の中ということで、立地条件に恵まれている。

活動グループからの情報を不特定多数の人に発信できるところが強みになると思う。

行政主導の感が強いので、今後、市民活動団体による地域活動の体制づくりが課題であると感じた。

3 加須市市民活動ステーション くらくら館

- 設置された場所が市内の古民家（商家）であり、集客の観点からは好条件である。難点としてはスペースの不足。

貸しレターケースなど自由に利用できる所が、利用団体同士で情報交換の場となっている。工夫が感じられる。

- 各自治体を含む生活環境の問題を根底に考えた市民活動の推進をしている。

課題としては、市町村合併による市民団体の統合と登録団体の積極的な活動と交流が必要であると感じました。

中心市街地の空洞化と商店街の空き店舗問題、行政の財政問題等、各市町村共通の問題を抱えながらも、その市に合った市民活動の重要性と人と人が交流する事の意味を改めて理解しました。

- 中心市街地の空洞化対策、にぎわいを取り戻すための施策の一環という説明がありました。予算化の理由付けという一面もありましたが、どうも市民活動サポートとの関連性に曖昧さを感じました。試行錯誤の最中との印象でしたが、こういった施設を設け、市民活動支援へと一歩踏み出したところに意義があるのではないのでしょうか。

- 市の補助金を基本に運営されていますが、1市3町合併で11万人の人口の施設にしては、施設の部屋の広さや照明等は改良が必要と思われる。

部屋に合った情報ボックスは、各クラブへの連絡や各種情報提供には便利だと思うが、1度も情報ボックスを見に来ない団体もあるとのことでした。

説明者が劇団をされているとのことで、白岡にも同様の劇団があるので、資料をいただきました。白岡の劇団の知人にお渡しし、連携ができればいいなと思いました。

- 空き店舗を利用して小規模で行っているのがとても印象に残りました。

白岡でも、空き店舗を利用して、その場所へ行ったら、いつでも、皆とおしゃべりでき、また、いろいろな情報が得られる（レターケース、掲示板等）場所、そして、活動していく中で、今後の問題、課題等をスタッフと市民で話し合いを重ね、身近なサポートセンターを作っていけたらと思います。

（はじめの一步が大変、リーダー、費用等）

● 公設民営（市が費用を出し、市民が運営）

代表の杉沢氏と花咲館長の人間性・個性で運営されており、他の2施設と違う雰囲気を感じた。（自主運営）

市の中心にある元糸屋を施設として活用していることは、古い町並みを残すことにもつながり、市民活動と合わせ、市の街づくりの姿勢を感じた。

狭いスペースをうまく使い、いろいろアイデアを出し活動している。

市民が無理なく集まれる距離のところに、このような施設を何箇所も作り、活動していければと思いました。

花咲館長から「ここでの活動をどのように評価していいのか」との話があり、自信を持って説明していた人でも、試行錯誤しながら運営している苦勞を感じた。運営には相当のエネルギーが必要と思いました。

● 加須市民活動センターくらくら館は、桶川の施設より狭かったのですが、活動内容は、かなり充実している感じがしました。担当者が積極的に活動しているように思いました。

● 古民家のたたずまいも含めて、人の温もりの感じられる施設でした。

古民家の改造には、費用もかかるとは思いますが、少しずつ使いやすい施設になるといいと思います。

登録した団体にITの技術支援は白岡でも行ってほしいと思いました。

地域を愛する住民の心があれば、工夫次第でいろいろなことができることを学びました。

● 職員の活動への熱い思いが感じられた。

狭小な事務所で活動する上で苦勞がありそうであったが、反面、さまざまな工夫をしながら活動することも、また、楽しんでいる気がする。